山田美光会長を再任

建築士事務所協会が通常総会

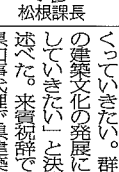
山田会長

群馬県建築士事務所協会（山田美光会長）は30日、前橋市内のアニバーサリーコート・ラシーネで本年度通常総会を開き、任期満了に伴う役員改選では、山田会長が再任された。

あいさつに立った山田会長は「今回の総会は一般社団法人移行や役員改選など重要な議案も多いので、慎重審議をお願いしたい」と呼びかけた。また同会は昨年度から、入会金免除や法定団体のアピールなど会員増強策を積極的に進めてきた結果、皆様のおかげで会員数の増強ができた。しかし他県に比べると人数的には少ないので、今後も増やしていきたい」と報告した。会員数は、昨年度当初172社でスタートし、新たに11者が入会、脱退も4者いたことから、対前年度比7者増加した。

賛助会の豊田会長の発声で乾杯

続いて議事に移り、昨年度の事業報告や本年度の事業計画について、いずれも原案通り承認した。本年度の事業計画は、耐震診断や法定講習の受託事業の縮小が見込まれるが、建築士事務所の管理講習会や開設者研修会の再開、会による会員事務所の立入指導を新たに実施する。公益法人制度改革では、一般社団法人移行へ向けて定款案を承認したことから、来年度からの移行へ向けて準備を進める。任期満了に伴う役員改選では、山田会長の続投が決まった。再任された山田会長は「3期6年にわたり会長を務めてきたが、事務所協会を取り巻く厳しい環境や法人法の対応もあることから、一般社団法人への移行がスムーズにできるようがんばりたい。また、会館の増築について、事務環境を改善するため本年度に模様替えを行いたい」と語った。


松根課長

総会後に開かれた懇親会には、群馬県建設業協会の青柳剛会長や群馬建築士会の渡辺良彦会長など多数の来賓や賛助会員も加わり141人が出席した。山田会長は「設計は、無から新しいものを造り、それが永年存在していくもの。建築文化としての発展、品位を兼ね備えて行かねばならない。安かろう悪かろうではなく、心あるものをつくっていきたい。群馬県の建築文化の発展に寄与していきたい」と決意を述べた。来賓祝辞で群馬県知事代理で県建築住宅課の松根良光課長は「安全で安心な社会基盤づくりや県民生活の向上を図るため、これまでに研鑽された技術力を存分に発揮してほしい」と期待した。乾杯の発生は、賛助会の新会長に選任された高洋製作所の畠田勝弘氏が行った。

専務理事に山崎氏選任

群馬県建築設計センターは30日、群馬県建築士事務所協会の通常総会終了後、臨時総会を開き、5月31日に辞任する新井陽一郎専務理事に代わり、新たに山崎伸一氏を選任した。

総会開き全議案承認

コンクリート製品協同組合

凍害被害で県との協議示唆

富沢理事長

群馬県コンクリート製品協同組合（富沢好隆理事長）は、5月30日に渋川市伊香保町地内にある伊香保温泉ひびき野で第36回通常総会を開き、2011年度の事業報告や収支決算などを審議するとともに、コンクリート製品の放射線量調査結果や製品の凍害被害調査結果を報告した。来賓には群馬県中小企業団体中央会振興課の森山昌樹課長補佐が臨席した。

開会の後、あいさつに立った富沢理事長は「公共事業の削減、東日本大震災の復興、福島第一原発の復旧など業界としては現在厳しい環境の中におかれている。大震災以降は予算を復興に充てることになり、財源はあるものの復興へ向けた計画はなかなか先へ進まない状況が続いている」と不安を覗かせる。また原発事故による放射能物質飛散について「報道では骨材や製品の凍害被害調査結果を報告した。来賓には置き場に放射能がたまり、それを生コンで建物を建てると非常に高い放射線量が出たとし、組合でも県の指導のもと調査を実施した」と話し、安中・渋川・前橋・伊勢崎・館林の地域をサンプルとし月1度3回を限度に3カ月調査を実施した旨を説明。また冬季中の寒波によるGPUの凍害被害状況を踏まえて「今後凍害の対応について県や組合で調節、協議していく必要がある」との考えを示した。

総会のようす

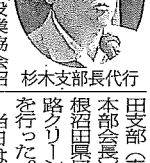
総会では11年度事業報告や収支決算の報告、本年度の事業計画案と予算案を慎重審議し、いずれの議案も承認となった。

そのほかコンクリート製品の放射線量調査結果について、福島県の一部コンクリート建築物から高い放射線量が測定されていることを受けて、県内で製造している製品の安全性を確認するため実施し、線量値は問題ない値であることを報告。また、凍害被害では沼田市やみなかみ町、草津町と長野原町で凍害の特徴的な外観変状であるポップアウトや微細ひび割れ、スケーリングが発生したことが報告された。

180人参加、ごみ拾い

県建設業協会 沼田支部

道路クリーン作戦で


杉木支部長代行

群馬県建設業協会沼田支部（青柳剛支部長＝本部会長）は30日朝、利根沼田県民局駐車場で道路クリーン作戦の出動式を行った。

当日は沼田市や昭和村、川場村を担当する支部会員各社から作業員90人が集合し、沼田市から星野三郎局長代行、

入札制度改革と変遷

第11回

「入札制度改革と変遷」の第11回目は、委託業務に最低制限価格の変動制なのに疑問かと言われた委託業務のあり方について。

2010年1月4日以降の公告および指名通知する案件から委託業務の最低制限価格を導入することとした。最低制限価格は事前公表することはなく、ただし予定価格のおおむね3分の2程度に設定するという「入札制度改革と変遷」の第11回目は、委託業務に最低制限価格の変動制なのに疑問かと言われた委託業務のあり方について。

2010年1月4日以降の公告および指名通知する案件から委託業務の最低制限価格を導入することとした。最低制限価格は事前公表することはなく、ただし予定価格のおおむね3分の2程度に設定するという

その初弾案件の3件だけだったとしても、予定価格の3分の2程度の66・6%が最低制限価格となっていたことから、「仮説」から「確信」へ。「66・6%は一瞬だけだったとはいえ、「定説」となった。

まさに、その日の注目されてある。

その後、ほどなくして、予想どおり、市場価格＝入札額によって最低制限価格は666どころではなく、600、つまり60・2ないし5%に設定された案件も目にするようになってきた。

その入札結果の直後には、弊紙には、一部コンサルタントから「666じゃないじゃないか、その発注担当者は分かっているのかね」などの類の問い合わせもくるようになった。

和南城会長を再任

県木材組合連合会

第57回通常総会開催

県木連の総会であいさつに立った富沢理事長は、大きな目標を達成し、来年度もこの制度が継続する部長は、「国では、公共建築物等木材利用促進法が施行され本県でも取り組んでいるが、今後は市町村への促進を図りたい」と天澤知事の祝辞を代読。川野部長は、活力ある森林整備、原木の安定供給など積極的に取り組んでいるが、今後は市町村への促進を図りたい」と天澤知事の祝辞を代読。川野部長は、活力ある森林整備、原木の安定供給など積極的に取り

城会長は「3期6年お世話になったが、協会は公益法人改革により、組織や事業内容が大きく変わる状況にあり、こうした時期に任事半ばで辞めるのはいかがかと考えた。あと2年のうちに一般社団法人化を仕上げ、次の役員、会員とともに、心新たに県木連前進に努めていきたい」と決意を新たにした。

続いて開かれた県木協の総会でも、議事に上程された全議案が可決され、任期満了に伴う役員改選では和南城理事長が

第8回総会開

本年度も技術講

県小規模橋梁再生研

田中会長

小規模橋梁の補修・補強工法の技術開発および普及を進める群馬県小規模橋梁再生研究会（会長・田中英紀群馬工業高等専門学校教授）の第8回総会が30日、前橋市内の群馬建設会館で開かれ、昨年度の事業報告や本年度の事業計画などが審議された。

つづいて「本年度の技術講習会」の端の計